



第 83 号

平成 31 年 2 月 12 日  
長崎県公立高等学校  
P T A 連 合 会  
長崎市竹の久保町12番9号  
電 話 095 (861) 3146  
F A X 095 (861) 3147  
印 刷 川口印刷(株)  
電 話 095 (838) 2181

平成30年度 長崎県公立高等学校 P T A 連合会 七地区 八会場 で開催 長崎県教育委員会と共催

## 地区別研修会 (第二十五次) 報告

(長崎地区)  
「心豊かで健やかな  
長崎っ子を育てるために」  
日 時 平成30年11月10日 (土)  
13:00~16:30  
会 場 長崎県総合福祉センター  
参加者 14校 401名

講演  
やすひウイメンズヘルスクリ  
ニック院長の安日泰子先生に、  
『私たちすべての課題』を自分  
らしさに出会うまでという  
演題で講演をしていただきま  
す。講演では性にとどまら  
ず多様な個性や価値観を受け

(諫早・大村・東彼地区)  
「ふるさとのために  
～地元を愛し、地域に貢献できる  
人材の育成を目指して～」  
日 時 平成30年12月1日 (土)  
13:00~16:30  
会 場 長崎県立西陵高等学校第一体育館  
参加者 16校 261名

講演  
「夢を見るものではなく叶  
えるもの」をおおむら夢ファーム  
シシユの挑戦」と題して、有  
限会社シシユ代表取締役山  
口成美氏よりご講演をいただ  
いた。地域の農作物にどのよう  
に付加価値を付け販売するかの  
挑戦で年間を通して〇〇



狩り」や農作物を活かした商  
品開発及びネーミングの工夫  
などに絶えず取り組まれ、営  
業者と消費者の双方が笑顔に  
なる場所を作られてきた。今  
では年間五十万人に届く来  
場者で農業だけでなく地域活  
性化に貢献されている。PTA  
活動の活性化に向けた工夫の  
仕方を考える機会ともなっ

「西彼農業高校の特色ある  
育友会活動について」  
西彼農業高等学校の塩崎公  
洋会長から職場体験・介護施  
設等の訪問実習や農場での  
作物栽培、動物の飼育など、学  
習活動の紹介がありました。  
活動報告では、総会の出席率  
増を図る取  
組みや、  
農業文  
化祭の  
餅つき、  
販売な  
ど地域  
と関わ  
りなが  
りな活  
動が紹  
介され



でも増えることに期待をよせ  
られていた。  
アトラクション  
西陵高校の吹奏楽部が親の  
世代に合わせた曲を中心に演  
奏した。実は初心者も多い西  
陵高校吹奏楽部は、九州大会  
や全国総文祭でも活躍してい  
る。いつもの明るく元気な演奏  
で、参加の方々も笑顔と感動  
に包まれた。  
終わりに  
県生涯学習課の山崎幸則  
係長から研修会をいただき幕を  
閉じた今回の研修会では、学  
校と地域がもっと連携し、地  
域と共に生徒を育てる必要に  
気が

研究協議  
地区内四名の保護者に自己  
紹介を兼ね居住地域の魅力  
を話していただいた後、諫早農  
業高校からは、地域社会と連  
携した活動や豊かな食文化の  
更なる発展を目指した活動  
等の紹介があった。大村工業  
高校からは、町内会子ども会  
の活動内容や県内企業と学校  
が連携した行事の紹介があっ  
た。川棚高校からは、生活総  
合科や部活動での地域と連携  
した取り組みの紹介があり、  
地域との交流を通して地元愛  
を育んでいくための意見が  
出された。ろう学校からは、我  
が子が小学校から地域のボラ  
ンティア活動に参加し、やり甲  
斐や生き方を見つけたことで、  
高等部に入学後も新しい場所  
で力を発揮できていることが  
報告された。また、県外就職の  
方が多いに思える職場が県内

講師  
山口 成美 先生  
有限会社シシユ  
代表取締役

講師  
安日 泰子 先生  
やすひウイメンズヘルス  
クリニック院長

(島原地区)  
『今、親は  
何をすべきか』  
日 時 平成30年12月1日 (土)  
会 場 ホテル南風楼  
参加者 9校 187名

委員会報告  
健全育成委員会からは、各  
地区の巡視の報告に加え、登  
下校の際に、学校保護者地域  
が協力して子どもたちの安全  
を確保する方針が示された。  
調査広報委員会からは「島原  
半島高P連だより」を発行し、  
PTA活動を広報することや、  
各校の広報紙をもとに情報交  
換を行い、今後の編集活動の  
助とする方針が示された。母  
親委員会からは、工業高校教  
諭の指導の下、特殊な機械や  
道具を使い、ペーパーウエイ  
(文鎮)作りを通して親睦を深

(佐世保地区)  
「社会の変化と家庭や学校のこれから」  
～「リスク到来社会」を乗り切るために～  
日 時 平成30年11月17日 (土)  
12:40~16:30  
会 場 佐世保市体育文化館  
コミュニティセンター5階ホール  
参加者 9校 372名

実践発表  
「『日本一の佐世保生』を育て  
る」と題し、佐世保商業高校P  
T Aから、学校の教育内容につ  
いての紹介と、ユニークな同窓  
会入会式、PTA・母の会の学  
校行事への取り組み、研修旅  
行、新聞作成などの活気ある



講師  
青崎 孔 先生  
長崎県消費生活センター  
(県民生活部食品安全・  
消費生活課啓発相談班)

活動報告がユーモアを交えて  
行われた。  
また、「つくづくつなぐつむ  
ぐ」新生佐世保中央高校「子  
どもを見守り、ともに歩む」  
と題し、佐世保中央高校夜間  
部PTAから、学校の新しい取  
組みや、登下校の合同巡視  
保護者面談や安全運転実技講習  
会への保護者の立会などの特  
色ある活動報告があった。  
講演  
「『リスク到来社会』を乗り  
切るために、親子で防ごう」  
消費者トラブル」の演題で、  
長崎県県民生活部食品安全・  
消費生活課啓発相談班の  
青崎 孔 先生よりご講演をいた  
だいた。  
「講演で話されたリスクは怖  
いけれど、子どもたちに  
絶対伝えます。」と来場者のア  
ンケートにあったが、十八歳成  
人制度成立を踏まえて、家庭  
の役割は何かを考えさせられ  
るたいへん有意義な講演であ  
った。  
終わりに  
県生涯学習課の坂本豊樹  
係長から研修会全体について  
学校と地域の連携が大切で  
あり、PTA活動を大人の学び  
の場としてとらえてほしいと講  
評及び指導助言をいただいた。



講師  
青崎 孔 先生  
長崎県消費生活センター  
(県民生活部食品安全・  
消費生活課啓発相談班)

め、各校の特色ある取り組み  
についての情報交換を行った報  
告がなされた。  
基調講演  
長崎県消費生活センターの  
青崎孔氏による「若者(高校  
生)を取り巻く危険」と題し  
た基調講演が行われた。詐欺  
や悪徳商法の手法について具  
体的な事例を挙げながら、消  
費者として被害に遭わないた  
めは、慎重な判断と相談が必  
要であることを説明してい  
た。また、成人年齢の引き  
下げに伴い、高校生や大学生  
が被害者となる危険性を説か  
れ、判断力の未熟な若者のた  
めに、スマートフォンやSNSの適  
切な使い方を家庭でも指導し  
ていくことの重要性を改めて  
感じました。  
最後に  
県生涯学習課の山口千樹  
課長から研究会全体について  
の講評及び助言をいただいた。  
インターネットの普及で人と人  
とのつながりが見えにくくな  
っている今こそ、日常の家族の  
話が親子ともっとつながり、関  
わっていくことを確認した。ま  
た、島原半島全体で子どもた  
ちを育て、子どもたちが将来、  
郷土に愛情と誇りを持てる大  
人になるために、地域全体で  
子どもたちを温かく見守って  
いくことを確認し、閉会した。

## 親子のカタチ

長崎県立長崎北陽台高等学校  
校長 野中 光治



酒飲みの親子が、  
禁酒を約束したもの  
の、互いに隠れて酒を  
飲み、酔っぱらって帰  
宅したところで鉢合  
わせ。親父が息子に  
「こんな顔が二つもある化け物に身  
代(しんだい)は譲れない」と言う。息子  
は「こんなぐるぐる回る家なんか要らね  
え」と返す。落語の「親子酒」ですが、この  
親にしてこの子あり。DNAは受け継が  
れます。  
披露宴で、目隠しされた新郎が母親と  
新婦の握ったおにぎりを食べ、「どちらが  
妻のものか」と問われる余興があるそう  
ですが、ほとんどの場合、新郎は母親のお  
にぎりを「妻のもの」と答えるそうです。  
父親手製のおにぎりで育った子どももい  
るでしょうが、食べ慣れたおにぎりを無意  
識に選んでしまう新郎。子育ての苦労は  
多いのですが、喜びはそれを上回る、と  
いうこと。

卓球の福原愛さんは、現役引退会見の  
最後に、記者やカメラマンとの記念写真を  
頼みました。彼女らしい気配り、そして感  
謝の気持ちの表し方なのでしょう。三歳  
から始めた卓球。泣きながらラケットを  
振る姿を覚えていた方も多く、思いま  
す。時に反発し、時に甘える我が子に、母  
親の千代さんは毅然として接したそう  
です。その千代さんが語った言葉。「愛は天  
才なんかじゃない。毎日毎日、こつこつ努力  
を続けたことが今につながっている。親と  
しても『福原愛』という選手を尊敬した  
い。子どもを持つ親として、子を導くこ  
との意味、親の在り方とは何かを考えさ  
せられます。  
『国家の品格』の著者である数学者の  
藤原正彦さんの父親は、直木賞作家で気  
象学者でもあった新田次郎。母親は藤原  
てい。この藤原家の家族がとて大切にし  
た価値観は「卑怯を憎む」だったそう  
です。藤原さんが子どものころ、父親は「弱  
い者がいじめられていたら身を挺して助け  
る。見て見ぬふりは卑怯だ」「大勢で一人  
をやつづけるのはこの上ない卑怯者だ」「う  
そをつくのは卑怯」と、我が子に導いたと  
言います。近頃、フェアであるべきスポー  
ツ界や政治の世界でも騒がしい出来事があ  
り、「恥ずべき卑怯なこと」が大きな話題  
になりました。日本人が昔から持っていた  
「清貧」とか「潔さ」というものを子に伝  
えられているか、反省させられます。



親子で語ろう  
「ふるさと長崎」  
長崎県教育庁生涯学習課  
今年度も県内7地区8会場において約2千名の会員の皆様に御参加いただき、PTA地区別研修会が開催されました。  
各地区毎に研修内容を工夫し、周到な準備のもと、実施していただきました関係の皆様方に厚くお礼を申し上げます。



## 祝 P T A 活動振興功労者 文部科学大臣表彰

長崎県高 P 連活動等の取り組みが評価され、このたび平成三十年度 P T A 活動振興功労者文部科学大臣表彰を県高 P 連第二十五代会長栗林宏光様、二十六代会長鈴木茂之様が受賞されました。

今後とも本県 P T A 活動に対してご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

### 「自立する 子ども達のために」

第二十五代会長  
栗林 宏光氏  
元長崎西 P T A 会長



平成二五年度・二六年度県連会長として、二七年度は九高 P 連長崎大会会長として九州各県連をまとめ長崎大会を成功に導かれました。

「ともに学ぶ」「大人が学ぶ」をきっかけ、高校三年間で自立する子ども達を目指した P T A 活動、教育環境作りに邁進されました。それは定期総会における教育懇談で、パリンピックを目指し活躍なさっている方、障がい者雇用に関わっておられる社長を招いての講演会を企画・開催されたことに現れています。

子ども達の携帯電話・ネットの使い方に警鐘を鳴らされ、保護者のための各種研修会を導入されるなど幅広い P T A 活動を展開して頂きました。

### 「子ども達の 未来のために」

第二十六代会長  
鈴木 茂之氏  
前長崎東 P T A 会長



平成二七年度・二八年度県連会長を務めて頂きました。特に、二七年度は九高 P 連長崎大会担当県連会長として各単位 P T A をまとめ長崎大会運営に尽力してくださいました。

スマートフォンが普及してくる中で、子ども達の使い方や SNS の問題点にいち早く疑問を呈され、家庭や学校でのルール作りを提唱されました。その取り組みは、今日的課題として引き継がれています。

幼・小・中・高と子ども達の健全育成を目指し、縦横連携したオール P T A 活動を推進していただきました。学校間は基より地域の一層の連携を目指した地区別研修会の活性化等、高 P 連活動の振興に尽力してくださいました。

## 祝 優良 P T A 文部科学大臣表彰

### 校舎とともに進化する

諫早特別支援学校 P T A  
P T A 会長 緒方 由美

昭和三十九年に開校し、今年創立五十五年を迎えました。

「明朗・自立・希望」の校訓の下、身体に障害のある小学生から高校生までの児童生徒約二二〇名が学んでいます。



ふれあい祭り

本校 P T A は、「みんなの力でみんなを支える」を合言葉に、子どもたちの明るい未来に向けて活動しています。保護者及び地域との連携のための「ふれあい祭り」や福祉行政の理解と情報共有のための研修、そして広報紙作りなどに力を入れてきました。県公立高等学校 P T A 広報紙コンクールでは平成二七年度から四年連続して入賞を果たしました。

今年度、これらの成果が認められて、優良 P T A 文部科学大臣表彰をいただきました。精力的に活動してくださった先輩保護者の皆様のおかげと深く感謝しています。

五五年の時を経た校舎の老朽化に伴い、今年度末から改築・改修工事が始まり、三年後には最新設備を備えた障害のある子どもが快適に学べる校舎に生まれ変わります。P T A 活動においても、「時代に合った」「時代をリードする」活動を模索し、新しい校舎に呼応する進化形「諫早特別支援学校 P T A」を目指していきます。

### ふれあい歓迎運動会

### P T A 綱引きで大活躍のお父さんたち！



## 我が P T A

長崎鶴洋高等学校

P T A 会長 森保 真一



祝 創立百周年記念式典

本校は、明治四十一年に現在の平戸市に開校し、今年創立百周年を迎えました。

平成十八年度に長崎県下でも全く新しいタイプの水産科と総合学科を併設する単位制の高校としてスタートしました。

キャッチコピーは「未来を拓く」、長崎県の発展のために使命感と実力を備えた人材の育成を目指しています。

勉学と実習に励む中、部活動にも力を入れていきます。カヌー部・ヨット部・ボクシング部は県高校総体優勝及び、九州大会インターハイ・国体でも上位入賞する強い

運動部に成長し、それに負けないくらい活発に活動している文化部があります。

鶴洋高校 P T A では学校の活動とともに様々な場面で生徒たちや学校の様子を知り、保護者が一丸となり和気あいあいと楽しくサポートできるような活動を行っています。体育祭では朝から保護者の方が校門に立ち、生徒達の登校を見守り、文化祭や校内マラソン大会、球技大会ではうどんの炊き出しで生徒たちと会話したり応援したりしています。これからも、生徒達が勉強をしやすい環境づくりや、運動部・文化部がいつそう活躍できるように、先生方・P T A でタッグを組み楽しい学校生活を送ってもらう為に取り組んでいきます。

## 我が P T A

### つくる・つなぐ・つむぐ 子どもを見守り、ともに歩む

佐世保中央高等学校校定時制夜間部

P T A 会長 長島 學

本校は、交通の便がよい佐世保市中心部にあり、昨年度創立四十周年を迎えました。

今年度、従来の夜間コースに加えて、昼から学ぶエンカレッジコースが新設されました。現在、生徒たちはアルバイトと学習の両立を目指し頑張っています。

夜間部 P T A では、定通体育大会前のおにぎり等差入れ、登校に合わせた挨拶運動、下校時の巡視活動、保護者（P）・雇用主（E）・先生方（T）が面接官を務める P E T 面接指導等、できる限り子どもたちを見守り、寄り添う活動を行っています。

また、中央祭（文化祭）パザールは、昼間部 P T A と合同で行っているため、P T A の輪を広げる最大のイベントとなっており、カレーやうどんに加えて杵つき餅の販売など、毎年大盛況に賑わっています。





平成三十年度 委員会活動報告

総務委員会

①次年度の県高P連のスローガン、②PTA総会への出席率向上のための取組、PTA総会出席率向上の事例データベース化、③教員の働き方改革について意見交換を行った。①については、これまでのスローガン「繋がりあひ共に育むPTA」を踏襲することになった。②については、アンケートの結果分析を行った。出席率の高さは保護者の協力度の高さにつながっている。出席率が急激に上昇した際の取組事例が紹介された。結果報告を各単Pへ還元し情報共有が図れたことは委員会活動の成果である。③教職員の働き方改革について取り扱ったことは教職員、保護者の意識改革につながるきっかけとなったと考えている。学校がこれまで担ってきたことで保護者や地域でもやれることについては、学校と連携して取り組むことも必要になってくる。

「PTA総会への出席率向上の取組について」は、本年度の成果を検証し、新たな取組事例があれば各単Pへ還元し、PTA活動の活性化につながることを期待したい。

健全育成委員会

①「交通マナーアップの取組」、②「家庭内のコミュニケーションの育成」、③「携帯電話・スマートフォン」の指導について検討、意見交換を行った。①については、バイク通学の許可のルール、自転車通学の交通マナーについて意見交換を行った。②については、ほめる、やる気を盛り上げる事例エピソードをあげながら意見交換を行った。③については「要望の会」において、PTA側から校内持ち込み許可の要望を提出し県教委との意見交換を行った。PTA・校長会・教頭副校長会・生徒指導主事会の代表者各3名による協議を踏まえ、「今後の携帯電話・スマートフォンの指導」について持ち込み許可のためのルールについて協議を行った。

子ども達の安全と学び、健全育成の面から様々な危険性やトラブル等の負の部分も十分考慮し各学校の実態に合った校内ルールを構築する必要がある、学校から生徒への指導だけでなく、それを遵守させるための保護者の責任と共通理解が必要であると意見が一致した。次年度のテーマは、スマホ持ち込みの各家庭、家庭と学校でのルールづくり、18歳成人にかかる諸問題への対応があげられる。

進路対策委員会

①「新規高等学校卒業予定者に対する雇用の確保について」の依頼文書、②「子どもの進路選択にどのように関わっていくか」コミュニケーションの取り方について意見交換を行った。①については、六月下旬に三十三の各地区商工会等へ依頼の文書を送付した。②については、専門学校からキャリアサポートスタッフのお二人による講話・質疑応答を行った。専門学校の選びのための確かな情報を得ることの大切さやコミュニケーションに関する生徒と保護者のズレについての講話の後、親として子どもの進路選択にどのように関わっていくか意見交換を行った。コミュニケーションの場として部活動応援の行き帰りの車中や三者面談が親子で考える重要な場である。父（信頼感）と母（親近感）の役割分担も有効であると意見が出された。

県内雇用確保の文書依頼、親と子のコミュニケーションの在り方については継続して話し合っていく。講話についても多くの保護者に聞いてもらう機会を持ちたいとまとめた。

調査広報委員会

今年度の広報紙コンクールは、「目的・使命」(十票)「企画・内容」(二十票)「編集・レイアウト」(十票)「見出し」(十票)の計五十点満点として採点した。どの広報紙もレベルが高く甲乙つけがたいものであった。表紙を含めて見やすさやインパクトの大きさは重要な視点である。校長やPTA役員からのあいさつは二面以降に載せた方がよい。見出しは大きくインパクトがあるものにした方がよい。生徒が何を考えているのかわかるようなアンケートは効果的である。「広報紙作成へのPTAや各委員の思いの強さや伝えることの難しさを感じた」との審査員の意見や感想が寄せられた。

最後に、多くの学校が応募するような広報紙コンクールの啓発活動やPDF等での配信により各校で他校の広報紙を見ることができるようになれば広報紙作りの参考になるなど、次年度への要望があげられた。(審査結果は下段に掲載)

平成三十年度 PTA広報紙コンクール審査結果

今年度の広報紙コンクールは十二月中旬に第一次審査、一月十一日に会長、調査広報委員、外部審査委員、教育委員会、事務局等十一名で最終審査を実施しました。応募総数三十一紙のうち十六紙が一次審査を通過し、入賞広報紙を選定しました。

外部審査委員としてお願いした、長崎新聞社読者ふれあい室の石丸俊也様から、「インパクトのある見出しをつける。生徒の表情を生かす写真は子どもと同じ目線で撮影する。手にとってもらえる紙面、生徒の様子を伝える広報紙づくりを心がけてください。」との助言をいただきました。

本年度は、新たに十単Pからの応募があり、そのうち四単Pが最終審査に残りました。応募いただきました単Pの皆様には心より敬意を表しますとともに感謝申し上げます。PTA活動推進のため、今後とも一紙でも多く広報紙コンクールに参加していただきますようお願いいたします。

長崎県教育委員会賞(最優秀賞) 猶興館高等学校高校PTA 「雷 峡」 長崎県公立高等学校PTA連合会会長賞 佐世保西高等学校PTA 「満 帆」 優秀賞 長崎東中学・高等学校PTA 「東の樹」 口加高等学校PTA 「ともがき」 西陵高等学校PTA 「上野が丘陵」 奨励賞 長崎高等学校PTA 「喜心寺ヶ丘」 波佐見高等学校PTA 「山 脈」

本年度は、新たに十単Pからの応募があり、そのうち四単Pが最終審査に残りました。応募いただきました単Pの皆様には心より敬意を表しますとともに感謝申し上げます。PTA活動推進のため、今後とも一紙でも多く広報紙コンクールに参加していただきますようお願いいたします。



PTA総会の出席率向上にかかるアンケート調査結果

長崎県公立高等学校PTA連合会総務委員会(H30.7月実施)

1 PTA総会の出席率(過去5年間の県全体の平均)

| 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 5ヶ年平均 |
|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 52.4%  | 54.0%  | 57.4%  | 59.2%  | 59.1%  | 56.2% |

2 PTA総会の出席率向上のための工夫されている事例(回答全57校)

- ① 複数回実施。(30校)
- ② 総会を土曜日に開催している。(36校)
- ③ 総会を日曜日に開催している。(14校)
- ④ 総会以外に授業公開を実施している。(23校)
- ⑤ 総会以外に講演会を実施している。(20校)
- ⑥ 総会以外に部活動保護者会を実施している。(15校)
- ⑦ 案内文書以外にPTA役員による積極的な呼びかけを行っている。(6校)
- ⑧ その他(16校)

九高P連 調査広報委員会アンケート集計表

(H30.7月~8月実施)

| No | 県 名  | 加盟<br>単P数 | 回答<br>単P数 | 回答率    | 発行有無 |       | H P掲載 |       | 発行<br>回数 | 1回<br>あたりの<br>編集<br>委員会 | 配付方法      |    |            |     | コンクール<br>参加有 |  |
|----|------|-----------|-----------|--------|------|-------|-------|-------|----------|-------------------------|-----------|----|------------|-----|--------------|--|
|    |      |           |           |        |      |       |       |       |          |                         | 生徒<br>通して | 郵送 | 保護者<br>に直接 |     |              |  |
| 1  | 宮崎県  | 40        | 35        | 87.5%  | 34   | 97.1% | 5     | 14.3% | 2.5      | 3                       | 34        | 1  | 0          | 21  | 60.0%        |  |
| 2  | 鹿児島県 | 78        | 66        | 84.6%  | 55   | 83.3% | 7     | 10.6% | 1.9      | 3                       | 54        | 1  | 0          | 21  | 31.8%        |  |
| 3  | 長崎県  | 77        | 73        | 94.8%  | 56   | 76.7% | 6     | 8.2%  | 1.9      | 3                       | 53        | 0  | 4          | 35  | 47.9%        |  |
| 4  | 大分県  | 52        | 49        | 94.2%  | 46   | 93.9% | 7     | 14.3% | 2.7      | 4                       | 39        | 7  | 0          | 27  | 55.1%        |  |
| 5  | 熊本県  | 58        | 58        | 100.0% | 54   | 93.1% | 6     | 10.3% | 3.2      | 3                       | 50        | 2  | 3          | 27  | 46.6%        |  |
| 6  | 佐賀県  | 58        | 55        | 94.8%  | 37   | 67.3% | 5     | 9.1%  | 2.2      | 3                       | 32        | 0  | 6          | 12  | 21.8%        |  |
| 7  | 沖縄県  | 66        | 66        | 100.0% | 56   | 84.8% | 8     | 12.1% | 2.4      | 4                       | 44        | 11 | 6          | 36  | 54.5%        |  |
| 8  | 福岡県  | 140       | 107       | 76.4%  | 105  | 98.1% | 14    | 13.1% | 2.4      | 4                       | 94        | 4  | 10         | 76  | 71.0%        |  |
| 計  |      | 569       | 509       | 89.5%  | 443  | 87.0% | 58    | 11.4% | 2.4      | 3.38                    | 400       | 26 | 29         | 255 | 50.1%        |  |

事務局だより

今年度の会報の発行につきましては、多くの学校会員の皆様にご協力をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

秋の地区別研修会は、県内七地区八会場で開催され、約千九百名の方々に参加いただきました。各会場とも活発な協議・意見交換等がなされました。

次年度の九州・全国の高P連大会は記載のとおり、福岡市、京都市で開催されます。多くの会員の皆様に参加をお願いいたします。

平成三十年度高P連関係の主な行事

- 県高P連定期総会 五月三十日(木) セントヒル長崎
- 九高P連福岡パビリオン大会 六月二十日(木)・二十一日(金)
- 福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル 全国高P連京都大会 八月二十二日(木)・二十三日(金)
- 京都市勧業館・ロームシアター京都



コラム

長崎県立佐世保東翔高等学校 PTA会長 八 並 学

私たちは自分のことを自分の責任で選択しているでしょうか。『人生は選択の連続である』という言葉があります。日々の小さな選択の一つ一つ、人生の岐路に立った時の決断。自分で考え自分で決める経験の積み重ねは、自信や生きる力に繋がるのではないかと。昨今の課題として挙げられる18歳成人について、また、社会人になる直前の高校生の保護者として、これから生きる子ども達に何を伝えたいのか悩むのです。

思い描いた夢がすべて叶えられれば素晴らしいと思います。しかし今自分が置かれている環境の中で、できないこともあるでしょう。そのことはしっかりと固執して立ち止まってしまうのではなく、切り替える勇気を持つこと。現状を把握し受け入れて、「今、何ができるのか」そのためには「どうしたらいいのか」を模索し、自分の意思で責任を持って選択ができること。自分のために自分で考え決断したという認識は、たとえ困難や失敗があっても、納得した上で乗り越える力になると思えます。その時の決断はすべて正解であったと信じ、次に繋げていく力を養うには、子ども達自身が考える機会を、周りの大人も意識して作っていくことが大切ではないでしょうか。親の力だけでは多感な子ども達に響かないことも多々あります。有難いことに多くのご縁を頂き、学校の先生方、地域や関わりある全ての方々の様々な視野からの御協力も必要不可欠であると痛感しています。

大人になった時、今までの繋がりに感謝し、自分の信じる道を歩める人であってほしいと思います。